



あすかロータリークラブ

Asuka Rotary Club Weekly Bulletin

RI 会長：K. R. "Ravi" Ravindran

地区ガバナー：中澤 忠嗣

会長：澤 光彦 エレクト：吉川 隆博

副会長：松中 久 幹事：森下 秀城

クラブ会報委員長：富士川拓也

Vol. 25 No. 15 (No. 1162) 2015 年 10 月 15 日発行

前回のニコニコ ¥88,000	前期会費預かり分 ¥855,000	今年度累計 ¥1,299,500
--------------------	----------------------	---------------------



秋空

撮影地：長野県志賀高原 撮影者：井上重行

第 1162 回 2015 年 10 月 15 日 (木)

◎会食 (ランチバイキング)

- 1 開会点鐘
- 2 お客様紹介
- 3 お誕生日お祝い
- 4 会長報告
- 5 幹事報告
- 6 出席報告
- 7 ニコニコ報告
- 8 委員会報告
- 9 本日の卓話

『歴史が教える平常心

あきらめるか、あきらめないか』

最後に決めるのは自分自身だと考えておく。

榎原市文化協会 会長 戸田 守亮様

10 閉会点鐘

ニコニコ

中澤 忠嗣様・石井 光洋様・佐野 剛一様・猪田 浩史様より、自祝金を頂戴いたしました。ありがとうございました。

- 澤 光彦君 本日は中澤ガバナーはじめ地区役員の方々に、貴重なご指導を賜りありがとうございます。
- 辰巳 林造君 中澤忠嗣ガバナー、猪田浩史幹事、公式訪問いただきありがとうございます。本日はよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

以下同文

- 猪尾 清君 大塚 昇君 岡田 憲一君
北岡 忠義君 小西 泰秀君 島田 悦治君
高田 雅信君 野島 誠一君 富士川拓也君
松中 久君 宮本 義人君 森下 秀城君
柳田 弘明君 吉川 隆博君 吉田 格君
吉田 勝亮君

赤崎 正佳君 中澤ガバナーをお迎えして、本日はご指導何卒よろしくお願い申し上げます。

1161 回報告 2015 年 10 月 8 日 (木)

於：榎原ロイヤルホテル

ソング

「奉仕の理想」

ソングリーダー 岩井 常二会員

ゲスト

- 中澤 忠嗣様 (第 2650 地区ガバナー)
石井 光洋様 (" ガバナー補佐)
佐野 剛一様 (" 公式訪問担当幹事)
猪田 浩史様 (" 副幹事長)

出席報告

	全会員	免除者	出席者	MU	出席率%
第 1161 回	57	24	41 (17)	9	100
第 1159 回	57	23	43 (14)	5	100

会長挨拶

○本日は中澤ガバナーの公式訪問です。食事の後、ガバナーアドレスをいただきます。中澤ガバナーよろしくお願いいたします。11 時から中澤ガバナー、地区役員の方々と当クラブの理事・役員懇談会が開かれ、的確なご指導と、またお褒めの言葉もいただきました。感謝と感激の気持ちでいっぱいです。これからも胸を張って頑張っていきたいと思います。

○10 月 24 日の月見例会と、本日のガバナー公式訪問例会の出席率と、前々回の「月見例会」の補正出席率も 100%となりました。本当に久しぶりです。本年度は 3 ヶ月連続で月平均 90%台になります。

4 つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

した。会員のご協力に感謝したいと思います。

○さて、あと 11 月 8 日は 25 周年記念事業「食べて応援・買って応援」で、東松島市からの海の幸いっぱい的大海鮮市が開催されます。思えば、東日本大震災後、何か役に立つことはないかと考え、吉川会員と植田会員の両名がすぐに現地に赴き、被災地で今必要とされるものは何かを調査しに行ってくれました。おかげで、現地のニーズが分かり、そこで「明日に向かってペダルを踏もう」の合言葉で、県内各地から集めた自転車 730 台を寄贈させていただきました。また、その翌年には、東松島市の小学校 2 校に軽四トラック 2 台を寄贈いたしました。これは日本ロータリー財団補助金を利用して頂きました。こうした奉仕を通じて、東松島市の人たちと深い絆が生まれ、第 1 回大海鮮市や、一昨年の当クラブ主催の IM にも、海の幸をたくさん用意してくれました。今回の 25 周年記念事業もぜひ成功させたいと思います。会員の皆様のご協力よろしく申し上げます。

幹事報告

- 次週例会は 8 階で行います。
- IM 及び新入会員セミナーについて
- クラブ概況の訂正

表紙裏ページ ・ロータリーの行動規範

「5. 事業や職業における特典をほかのロータリアンに求めない。」を削除する。

次回の例会

檀原 RC 合同例会

ガバナーアドレス



2015-2016 年度
第 2650 地区ガバナー
中澤 忠嗣様

本年度 2650 地区のガバナーを務めさせて頂いております、中澤忠嗣と申します。所属は京都南 RC でございます。皆さんのクラブより少し古いクラブで少しだけ人数が多いクラブです。まもなくあすか RC に抜かれるであろうと思います。

今日は公式訪問ということで、澤会長はじめ理事役員の方々に駅までお出迎え頂き、誠にありがとうございます。そして、11 時より会長幹事および理事懇談会をさ

せて頂き、そしてこの例会となったわけです。新しい旗が出来上がっていて驚きました。今日まで 60 余りのクラブに訪問をしてまいりましたが、新しいマーク入りの旗は見ておりませんでした。京都南 RC でも作っておりませんので、帰ってすぐに会長にお願いしようと思います。また、植田会員は素晴らしいブレザーを着ておられますね。これぞロータリアンだなと思いました。早速週報に私どもの写真が載っており、非常に良くできたクラブだなと感じた次第です。皆さんは間もなく 60 名に届くわけですね。25 年の歴史で着実に会員数を伸ばしていらっしゃることはうれしく思います。私どものクラブも一回も大きく会員数を減らすことなく 62 年目に入っております。一度も会員減で悩んだ事が無く、毎年会員を増やし今年度 222 名の会員を持つまでになりました。これは全国で 3 番目です。1 番が東京 RC、2 番が大阪 RC、3 番目が京都南 RC です。京都 RC を抜いております。親クラブを抜いても何の問題もありません。幾らでも引き離して下さい。仲間は多い方が楽しいのですから、頑張ってくださいと思います。日本は 90 名という会員数から大型クラブと言います。2650 地区の中にも大型クラブが 11 クラブございます。皆さんも間もなくです。

本年度の会長はラビン・ドランという方です。スリランカ、昔でいうセイロンと言う国で、この地区は 1 国 1 地区で 2000 名の会員しかおりません。そこから出てこられた国際ロータリーの会長で、これは歴史的なことだと思います。2000 名と申しますと世界で 45 位です。1 番はアメリカ、2 番はインド、3 番は日本で 8 万 8 千名です。この中での 45 位という国から会長を選んだのです。

ロータリーの基本をもう一度思い出して頂きたいと思います。ロータリークラブは RI の一員であるということです。RI は世界で 200 を超える国で地域数は 536、クラブ数は 3 万 4800、会員数は 120 万人を超えています。ロータリークラブはその会員であるロータリアンで構成されています。ロータリークラブは標準ロータリークラブ定款を採用しなければなりません。標準ロータリークラブ定款は全てのクラブが RI 定款と細則の規制に矛盾しない細則を採択することを義務付けております。つまり、RI 定款、RI 細則、そしてその中にあすか RC の細則を設けなければならない、これが大原則なのです。これは世界に通じている一本の印です。日本事務局というのはありますが日本ロータリーというものはありません。つまり、あすか RC は RI に一本の糸で繋がっているということです。地域社会ということを随分聞かされてきたと思います。明日香、この檀原地域、この地域にいい事をしよう、或いは日本で何かが起こった時に皆さん方は古い自転車を集めて送るっていらっしゃいますが、素晴らしいことです。しかし、私たちは知らないうちに地域社会が重要になってしまった。そうではありません。ロータリーは世界の組織だということを今一度頭

の中でしっかりと持ち、そして地域社会というものを持って頂きたい、こういうことを私の年度で申し上げているのです。

今年度1月に国際の理事会がございました。その時に次のように決定されましたので、申し上げます。地区とはRIの管理運営のためにRIの細則に従ってRI理事会によって設けられた地理的な境界内にあるクラブのグループです。地区の活動および組織は個々のロータリークラブがロータリーの目的を推進するのを援助することを唯一の存在目的とするものである。地区はクラブが活動内容を決めたら「そのことを援助する唯一の組織」ということです。地区から「こうしなさい」、「ああしなさい」ということは申しませんと皆さん方にはっきりとお伝えします。

本年度のRIのテーマは「世界へのプレゼントになろう」です。テーマの1ヵ所を読んでみます。「結局のところ私たちの人生の価値はどれ程得たのではなくどれ程与えたかによって判断されるものです。ですから苦しんでいる人から目を背けずにその苦しみを和らげてあげましょう。同情の言葉をかけるだけでなく実際に何かをしてあげましょう。社会から享受するだけでなく社会に貢献しましょう。」、これがRIの基本テーマです。つまり「ロータリーを通じて奉仕をしましょう。会員がプレゼントになりましょう。」とRIは言っているのです。皆さんはその通りに事業を積み重ねている、立派なクラブです。どうぞ自信を持ってロータリー運動を展開していただきたいと思います。本年度ロータリーには国際ロータリー会長賞というものあり、これにエントリーすることができます。そこに2つの必須項目と6つの項目が書かれています。必須項目の1つ目、「ロータリーセントラルに各クラブの情報を入力すること」。そこに皆さん方のクラブの方針、活動計画、会員増強計画等を登録してください。必須項目2つ目、「人頭分担金を期限までに支払うこと」です。これだけ大きな組織になりますと、世界には人頭分担金を期限までに支払ってないクラブがあるということです。そして、お金を払ってないクラブが会長賞を狙っているということです。それほど世界の組織は大きくなってきたということです。項目1番目、「ロータリー会員はマイロータリーに登録すること」です。皆さん方の50%の方々が今年中に登録してください。そうでなければエントリーできません。2番目は会員増強と維持、各クラブの戦略計画を必ず立案してください。戦略的目標、計画、価値観の行動に移してください。「小さいクラブでは奉仕に限りがあります。大きな組織で大きなことをしよう」という考えです。3番目、ポリオ撲滅は最重要課題です。4番目は財団への寄付。財団はロータリーのエンジンです。5番目は新世代です。青少年の囲い込みをしましょう。クラブの中でしっかりとアクト、インターアクト、RYLA、そして青少年交換、色々なプログラムを囲い込んで若者を育ててください。

そして6番目が公共イメージの向上です。ロゴが変わりました。この事を考えてエントリーしてください。

次に、2650地区の方針について申し上げます。主役はあくまでも各地のロータリークラブとロータリアンであります。一番目は、クラブの主体性を第一にしています。クラブと同じ目線で語り合います。ロータリーらしい奉仕活動が推進できる様に側面から支援します。ロータリーらしさを共に考えて行きましょう。二番目に、ロータリークラブの個性を明確にしてください。自分たちのクラブらしさを創造してください。あすかロータリークラブらしさを作り出してください。三番目は、憧れのロータリークラブを目指しましょう。かつてのロータリークラブは地域社会にとって今よりもっとあこがれの存在であり、その活動は共感できる魅力あるものでした。そして入会したくても簡単には入会できない、それがロータリークラブでありました。地区とクラブ、お互いに改革をしなければなりません。毎年でしたら例会終了後クラブ協議会を開催しておりましたが、私から石井ガバナー補佐をお願いしてクラブ協議会を会長懇談会に替えていただきました。これも1つの改革であります。これは次年度、次々年度のガバナーと話し合って決めることにしました。できる限りロータリーの合同の公式訪問をしてください。次にロータリー財団への寄付一会員180ドルを目指して下さい。ポリオ・プラスへの寄付は一会員2,000円を目指して下さい。公益法人ロータリー米谷記念奨学会への寄付は一会員24,000円を目指して下さい。ロータリーの希望の風奨学金への寄付は一会員10,000円を目指して下さい。そして今年度IT化のお手伝いを行います。皆さん方のクラブは立派にホームページをお持ちになり、立派に更新をされています。しかし2650地区97クラブの内、16クラブがホームページを持っておりません。また15のクラブが更新をできていない。酷いクラブになりますと2年前の会長さんの名前と写真が出ている、そんなクラブもあります。公共イメージどころではありません。そういう差が出てきているのはまずいので、遅れているところにお手伝いをします。

このようなことで今年度地区はスタートを切った訳ですが様々な事を改革しながらやっていかなければなりません。公式訪問97クラブ全部回ろうとしているのは日本でただ1つ、この2650地区だけです。長い期間、半年掛けて回ろうとしている。それを私のお願いで97が82になりました。それでも12月10日までかかりません。12月10日から1ヶ月も経たないうちに次の利根さんがガバナーとしてアメリカに行き、来年のRI会長の方針を聞いてくるのです。インターネットの時代、それは瞬時に世界中日本中に伝わります。12月にクラブに訪問して今年ラビン・ドランはこんなことを言っていると伝えて何の魅力がありますか。それでは遅いのです。皆さんも半年ずれていることを一度頭の中で整理をしていただければロータリーへの取り組み方も変わって

こよюと思ひます。地区も変わります。皆さん方も少し変わっていただけたらと思ひます。

次に先ほど申し上げました 1 月にアメリカに行つてサンディエゴに行つて 6 泊 8 日毎日研修で 10 回の本会議、17 回のセミナーを受けてきました。毎日朝 8:30 から全体会議が始まります。そこでは歴代 RI 会長が色々美しい話ばかりスピーチをされる。「ロータリーはこうなのだ、世界のロータリーはこうして行くのだ。」と嫌と言うほど聞かされます。ところが、一人だけ違うことをいった人がいる。ロータリーの事務総長ジョンヒューコという方です。この方のスピーチを皆さん方にお伝えしたいと思ひます。その題名が「ロータリー職員からの支援」です。1 つ、「近年 2014 年ロータリーは多くのことが達成されました。ポリオ撲滅活動の前進です。インドでポリオフリーが認定されたこと、あと少しまでこぎ着けました。私達は諦めないで 2018 年にポリオ撲滅宣言ができるように頑張りましょう。」皆さん方もご承知の通りアフリカも 1 年間ポリオが出なかった、あと 2 カ国になったわけです。しかしその 2 カ国が大変難しい状態の国だそうでございます。余り詳しいことは判りません。しかし、「それほどの所まで来た、諦めることは無い。」ということを行っています。2 番目、ロータリー財団は米国拠点の非営利団体です。非営利団体を格付けする組織から連続 8 年間 4 つ星をもらったそうです。「ロータリー財団は管理運営が徹底している、間違いないですよ、皆さん方寄付をしてください。」と事務総長は言っています。3 番目、ロータリーは素晴らしい団体です。しかしこれまでの成果に満足して歩みを止めるようなことがあってはなりません。ずっと替えるべきで無い一部の伝統もあります。しかし、恩恵をもたらすよりもむしろ障害となつてしまつている伝統もあります。「変えても良い伝統」、「変えなければならない伝統」、「そして守らなければならない伝統」というものがあります。また単年度制について言及しました。例えばリーダーが毎年交代する伝統を見てみましょう。毎年指導者

が替わり方向性が変わります。私達には道をジグザグに進んでいく余裕はありません。単年度制に疑問をかけたという発言です。次に、戦略的な焦点の 1 つとして「出席要件よりも参加を重視すると決めたらロータリーはどんな組織になるのでしょうか」と投げかけました。事業をしても「そこに全クラブのメンバーが参加をしなければ何の意味も無い」と言ったのです。「小さなことでも大きなことでも自らロータリアンは汗を流しましょう」と提案しているわけです。次にクラブや地区の会費構造の視点を変えて考えてみてはどうでしょうか。RI への人頭分担金 54 ドル、もうすぐ 55 ドルになります。そして毎年 1 ドルずつ上がっていきます。クラブ会費、地区会費、食費が大部分を占めるロータリアンの実際のコストに比べれば雀の涙です。世界のどんなロータリアンでも 55 ドルです。この恵まれた経済成長ができた国でも 55 ドル、しかしまだ裸足で歩いているような国のクラブも 55 ドルです。そして毎年世界では 120 万人の会員がいます。その内の 10 万人が退会致します。そして 10 万人が入会している。この組織を 150 万人にしようと計画しています。彼が最後に結びに「何年も前にハリスはこう記しました。ロータリーが来たるべき運命を切り開くには常に進化し、時には革命的にならなければなりません。この言葉は今日にも通じるものがあります。」と締めくりました。

ロータリーは大きく変貌しようとしています。そして私達は RI と若干距離を感じるようになってきました。今まで教わつたロータリーのイメージと少し変わってきました。では私達はどうすればいいのでしょうか。あすかロータリークラブの細則をはっきりと打ち出し、このクラブのあるべき姿というものをはっきりとなさることだと思ひます。『奈良にあすか有り』、そんな気持ちで是非とも日本の中で優秀なクラブ、当然奈良の中ではナンバーワンになるクラブになっていただきますことを祈念申し上げまして私のアドレスとさせていただきます。ありがとうございました。

